静岡県立こども病院

こども病院ひろば

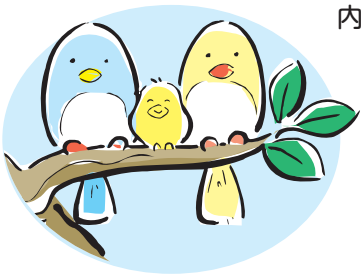
第２号
発行日
平成24年
7月31日

編　集　地域医療連携室　〒420-8660 静岡市葵区漆山 860　TEL：054-247-6251（代表）　FAX：054-247-5688（直通）

看護部の紹介

いつも大変お世話になっております。
この春こども病院看護部にも新たに 37人の看護師が加わりパワーもアップしました。フレッシュな感覚とベテランの看護師で安心してお子様の治療を受けていただける環境を整えたいと考えています。

こども病院の看護部は、4つの ICU（NICU・PICU・CCU・MFICU）と５つの一般病棟等に看護師を配置し、胎児から思春期・母性、身体からこころまで治療とケアが必要な患者さまをお預かりしています。ご家族の付き添いはありませんが各病棟に保育士を配置し、チャイルドライフ　スペシャリストとも連携を取りながら心身の苦痛の緩和とこどもなりに納得して治療を受けられるよう支援しています。また、セラピードッグも看護部に所属し、こどもたちのサポーターとして活躍しています。長期に入院が必要なこどものために院内にきららとそよかぜという二つの訪問学校があり、治療中でもこどもの成長と発達を促すための支援を大切にしています。昨年も高校進学のため院内で受験をし、新たな道を歩き出したこどももいます。こどもたちの頑張る姿にエールを送りながら、私ども看護師も元気をもらい看護に励んでおります。



昨年度、集中ケア認定看護師と新生児未熟児看護認定看護師が新たに誕生しました。今後も認定看護師や各部門と連携してお子様とご家族のニーズに少しでも近づけるよう努めてまいります。

看護部長　岡村暁美

小児外科の紹介

小児外科　漆原直人

先天性胆道拡張症の手術風景

小児外科は、小児の一般外科すなわち消化器、呼吸器などの外科的病気や腫瘍などの治療を行います。現在、小児外科指導医2名を含め 8名の医師が診療にあたり、年間800件以上の手術を行っています。

当院の小児外科の特徴

当院の特徴は、内視鏡下手術の適応を積極的に拡大していること、数多くの固形腫瘍手術を行なっていること，気道系の手術に力を入れていること、喉頭気管分離術や噴門形成術をはじめとした重症心身障害児に対する手術を積極的に行なっていることなどです。

◆関係各科との連携

産科· PICU· NICUとの連携にも力を入れ、胎児診断例のカンファレンスや院内出生の手配· 出生後の管理もスムーズに行なっています。また術後の急性期の管理、呼吸状態の悪い症例の管理などはPICUで行ないます。未熟児をはじめとする新生児の外科症例はNICUやPICUと連携しており、外科医は手術に専念でき、これまでの豊富な経験をもとに新しい治療も積極的に導入できるようになりました。

悪性固形腫瘍は、血液腫瘍科、病理科、放射線科と定期的なカンファレンスを行い、県の小児がん拠点病院としての機能を果たしています。

◆内視鏡下手術

内視鏡下手術数は飛躍的に増え、現在では全手術数の半数が内視鏡下手術になっており，小児内視鏡手術を全国で一番多く行っています。鼠径ヘルニア、虫垂炎、噴門形成術、ヒルシュスプルング病などでは内視鏡手術を標準手術とし，先天性食道閉鎖など新生児の内視鏡手術にも取り組んでいます，また先天性胆道拡張症は女児に多い病気で，整容性にすぐれた内視鏡手術の良い適応と考え全国に先駆けて導入しています。

◆地域連携と緊急への対応

多くの患者様をご紹介いただいており，地域の病院とはより密接で顔の見える診療が重要になってくると考え，できる限り情報を発信し共有していきたいと思っています．また 365日24時間2人のオンコール体制をとっていますので，いつでも緊急手術に対応できるようになっています．ご遠慮なくご相談ください。

◆小児外科認定施設としての役割

全国各地から小児外科研修のために集まったメンバーは，各々のこれまでの経験を基にカンファレンスでは様々な意見を出し合い，従来の手術に加えて新しい手術にも取り組んでいます．これからも多くの医師が魅力を感じ，興味をもって研修に集まってきてくれる活気のある小児外科であり続ける為に，これまでの伝統を保ちつつ新しいことにチャレンジしていきたいと思います。

静岡県立こども病院における ストーマ外来開設のご案内

当院で治療を受け退院される患児（者）さんの中には、継続して皮膚のトラブルのケア、ストーマ（人工肛門・人工膀胱）のケアを必要とする方がいらっしゃいます。
そこで、皮膚排泄ケアに関する指導・相談ができる外来を以下のように開設いたしました。

ストーマ外来

1. 日　　時　平成24年6月より第1、3、5金曜日
2. 予約時間　第1、3、5金曜日の午後1時30分から 1人30分枠
3. 相談内容　①ストーマケア
　②失禁によって起こる皮膚障害・失禁用品紹介や学校生活への対応
　③褥瘡ケア・その周囲のスキンケアや予防方法
　④胃瘻の周りや CVカテーテル周囲の皮膚が赤くただれているなどのスキンケアや予防方法
4. 相談対応者　皮膚排泄ケア認定看護師
5. お問い合わせ方法　各科・主治医と連携をとりながらタイムリーに必要なケアを支援していきます。
　受診を希望されるお子様・保護者の方は外科外来か地域連携室にお問い合わせ下さい。

皮膚排泄ケア認定看護師　中村雅恵

お知らせ

○講演会情報

9月6日(木)18:30～19:30　会場：こども病院大会議室
テーマ：哺乳と哺乳ビンの基礎知識
講師：こども病院歯科　加藤光剛医師

○眼科診療のお知らせ

このだび、新患患者さまの診療を再開することになりました。
予約枠に限りがあり、混み合うことも予測されます。なにとぞご了承ください。
尚、学校健診等につきましては、近医眼科受診後のご紹介状が必要になります。
ご迷惑をお掛けいたしましたが、今後もよろしくお願いいたします。

静岡県立こども病院　眼科外来

各診療科医師の異動のお知らせ

退職		採用	
麻酔科	佐藤　玲利	血液腫瘍科	伊藤　理恵子
麻酔科	三井　一葉	麻酔科	釜田　峰都
小児外科	渡邉　健太郎	麻酔科	加古　裕美
		整形外科	松岡　夏子
		循環器集中治療科	元野　憲作
		麻酔科	佐藤　光則
		麻酔科	近藤　聡子

前回の「各診療科医師の異動のお知らせ（6頁下段）」の採用ですが、形成外科　桑田和幸です。申し訳ありませんでした。

Sweden視察を終えて

周産期センター　西 口 富 三

周産期センターの西口です。今年3月、周産期医療体制の視察を目的に Sweden王国にいってまいりました。メンバーは、小生を含め医師2名および看護スタッフ2名のほか、オブザーバーとして県医師会理事の赤堀先生にもご同行いただきました。

Swedenは人口約900万の立憲君主国家で、同国最大の都市、“北欧のベニス ”と称される首都 Stockholmは人口約80万人、北海に面する第二の都市 Goteborg(イエーテボリ)でも約50万人と、都市の規模はそれほど大きくありません。しかし、同国には国際的権威を有する大学が軒を連ねており、Stockholm市内には皆さんよく御存知の Karolinska大学(ノーベル賞選考委員会併設)が、また、地方の小都市にも Uppsala大学(1477年創設) や Lund大学(同、1666年)、Umea大学(夏の王宮都市 Umea市)など、多くのノーベル賞受賞者を輩出した伝統ある大学があり、Swedenはまさに学究の国といえます。同国は、我が国より広い国土を有するも広大な原野を抱えるため、地理的な制約から医療の集約化が進んでおり、1000床を越える基幹病院(大学病院6施設を含む) が全国に 9施設、そのもとに地方の中小病院が系列化されているといった状況です。

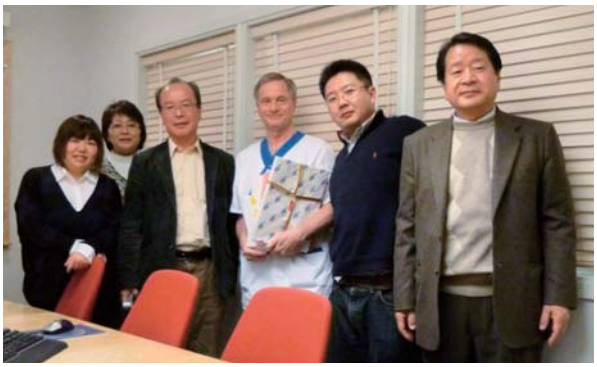
さて、今回の視察の主たる目的は、我が国ではその取り組みが遅れている postpartum care system(産褥婦ケア)に関する調査、そして、先進的な NICU医療システムの視察であり、Stockholm市内の基幹病院、Sodersjukhuset病院(Stockholm South General Hospital)と Uppsala大学を訪れた次第です。前者は Stockholm市南地区にある総合救急病院で、年間9万件の救急患者を扱う救急センターであるとともに、年間7,000件の分娩を扱う市内屈指の周産期医療センターとしても機能しています。また、当施設は、Sweden国内においても産褥婦ケアプログラムが整備された代表的な施設として知られています。一方、後者は、Stockholm市から電車で約50分の Uppsala市にある基幹病院で、我が国でも注目されているカンガルーケアの先駆的な導入など、いわゆる family centered care systemとして有名な NICUを有しています。紙面の都合上、ここでは産褥婦ケアの状況について述べたいと思います。

Sodersjukhuset病院

Swedenでは、分娩後の入院期間は、正常分娩の場合、翌日退院が約8割を占め、帝王切開分娩でも平均2.5日となっています。我が国での産後5～7日間入院と比べ明らかに異なりますが、この背景には、入院費が原則無料であるため、病院単位での経常収支の健全化を保つために入院期間を極力短縮しているもので、その替わり、退院後の保健活動に重点がおかれています。すなわち、助産師による頻回の電話訪問や家庭訪問による支援体制、病院に設置された専門外来、そして、集団指導などの地域の支援施設との連携システムが整えられています。実際、Sodersjukhuset病院においても、産婦人科部門の医師一人に対し(実数83名)、midwife/ assistant nurse 2-5、SW (social worker) 5といったスタッフ構成で、一人一日10数件の電話訪問を担い、また、専門外来として、乳房外来4室 (専門助産師約20名で構成)、メンタルケア外来7室(担当医師1名、助産師 /看護師7名) が常設されています。また、骨盤底ケアについては、ケアマネージャーの指導のもと、地域施設を利用した集団ケアが行われています。Swedenでも核家族化が進んでおり、夫婦に対する支援体制が重要であることはいうまでもありません。母体の健康なくして健全なる育児は不可能であり、ひいては虐待のリスクを避けるため、我が国でも今後 postpartum care systemを展開していくことが重要といえます。今回の視察で得た情報を、静岡県での今後の活動に活かしていきたいと思います。

Stockholm市内でみかけたユニークな芸術

３月の視察であったため、極度の寒さを心配していましたが、海面は氷で覆われていたものの、気温は 10度前後、Sweden の人達と一緒に春の到来を謳歌してまいりました。



Uwe Ewald教授を囲んで (Uppsala University: NICU)